

所管常任委員会での主な質疑

総務文教 常任委員会

副委員長 濱 本 康 裕

問 ふるさと寄附金で歳入を増加させる工夫を。

答 現時点では、制度趣旨通りの考え方をしており、お礼として特産品を送っている。今後、寄附金増加に向け、物品だけではなく、魅力あるソフト面の内容を含め検討したい。

問 中学校統合に関する町民意識調査は。

答 平成21年4月統合前の統合方針の中で、生徒数が3百人を切る平成29年4月に一校統合を目指すとする。一校案を前提として通学距離、通学時間、生徒280人を想定し、1学年3クラスの9教室、特別教室3クラスの12教室が必要であることを示しアンケート調査を行う。

対象者は、0歳児から中学



総務文教常任委員会

問 生までの全ての保護者（約1千7百40人）にアンケート調査を行う。

答 中学校統合問題については、町として島全体をどのようにブランドデザインするかを町長部局とも協議しながら行っていただきたい。

答 平成27年度に策定する町の

総合計画と整合性のあるものにする。

問 自主防災組織等防災訓練補助金の上限は。何度も申請できるのか。認定状況は。

答 上限は5万円であり、訓練ごとに申請できる。現在5団体を認定している。

問 久賀公民館工事の内容は。

答 耐震改修、老朽化した壁、廊下、トイレの改修、二階への昇降機の設置を予定している。

民生常任委員会

委員長 今 元 直 寛

問 児童館の長期休暇中の開始時間の変更と対象児童の拡大を。

答 新年度から夏休み、冬休み春休みの保育時間を朝8時からに変更し、対象児童を小学校6年生までに拡大した。延長保育は現行の午後6時までである。

問 福祉タクシー事業の対象者人数、利用回数枚数を増やす等、改善をお願いする。



民生常任委員会

問 高齢者・障害者等約1千6百人が対象者人数である。今後、利用回数の増や助成額の上限を定める等、内容について検討する。

問 東和・橘・大島の各病院経営は大丈夫か。

答 当初予算の業務量を維持できれば、やっていけるが、入院及び外来単価、看護基準を上げていかなければ厳しい。なるべく町内の病院を利用して欲しい。現状を堅持しつつ職員を減らさず、いかに診